

学校評価（共通項目）評価書

朝霞市立朝霞第二中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明（ここにコメントを入力してください）
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す学校像「地域の中で 仲間とともに 家庭とともに 私らしく伸びる学校」のもと、校長の学校経営方針に基づき、全教職員が目標に向かって組織的に取り組むことができた。 ・教職員が情報を共有し共通理解の下に教育活動が行えるように毎週、生徒指導部会、教育相談部会、運営委員会を実施している。 ・校内委員会（生徒指導委員会、栽培委員会、ICT・情報教育推進委員会、鳴子推進委員会等）が活性化し、生徒の主体的な活動を引き出すために教職員が創意工夫する場面が増えた。 ・一部の人に仕事が偏る傾向があったため、運営委員会で分掌組織や仕事内容の調整が必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、管理職のリーダーシップの下で、組織目標の明確化、課題の共通理解、取組内容・方法の提示など、教職員に対して目標達成に向けた職務行動についての共通認識が得られている。 ・目標達成に向けた共通認識を土台に、教職員同士がコミュニケーションを深めながら協働意欲を高め、組織的マネジメントに意欲的である。 ・学校経営方針に基づいて立てた各分掌組織の目標や分掌組織の成員の役割等が、当初の計画通りに実施されているかどうかを、期間（学期ごとなど）を区切り、分掌ごとなどに分けて評価し、改善を図ること（PDCAサイクル?）も着手されている。 ・教職員の熱意を感じるほど、一丸となって取り組んでいるように感じる。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 <small>（※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的対応を含む）</small>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室等を計画的に実施し、生徒が安心・安全に教育活動を行うことができる体制を整えている。 ・毎月実施している施設設備の安全点検を教師だけでなく生徒の委員会でもおこなうことで、様々な視点からの点検を実施することができた。 ・破損箇所の中には、なかなか修繕に入れない部分がある。予算の問題もあるが計画的に修繕を実施していくことが必要である。 ・施設・設備は老朽化が進行しているため、安全面・運用面においても早急な対応が必要である。 ・避難訓練は現代的な危機を想定して、体験的な訓練を計画的に実施していくことが必要である。 ・事務職員や校務員ができる範囲で、素早く点検・修理をすることで事故の未然防止や拡大防止が進んだため継続したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の安全管理に求められる、児童生徒等の安全を確保するための環境を整えることに関し、組織的な体制が確立され、生徒等の安全の確保を図る取組がなされている。そこでは、予算的な制約を受けながらも学校の実情に応じた対応が取られており、また安全管理に生徒の委員会も参加させることで、安全管理と安全教育との一体的な展開も見られる。 ・学校安全計画の策定と定期的な見直し、危機管理マニュアル等の整備と改善、教職員の研修など、今後の一層の活動に向けた意識の醸成がなされている。 ・外部に聞こえてくる事案もあるが、それらに対し改善を目指し取り組んでいると思われる。 ・取り組んでいますますが、残念ながらいじめが少なからずあるようです。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査では、国語の平均正答率が全国平均から3.7ポイント、県平均から3ポイント上回っている。数学においてはそれぞれ、4.7、3.0上回っている。 ・埼玉県学力・学習状況調査では、県平均と比較して1年国語が+5.1ポイント、数学が+4.4、2年国語が+0.8、数学が+1.0、英語が-1.6、3年国語が+2.1、数学が+7.1、英語が+4.1であった。 ・調査結果の分析から、生徒全体としては概ね基礎学力を身に付けているか、若干優位な力を身に付けていると捉えられる。 ・AI学習ドリルの活用が進み個別最適な学びが推進されている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査にて、全国平均および県平均を上回るスコアを挙げたことは喜ばしいことである。 ・ただ、いわゆるPISA型問題の出題へとシフトしている全国学力・学習状況調査で、基礎学力の習得状況について推測することに落とし穴があるかもしれないので、この点について若干の留意が必要とも考えられる。 ・普段の学校を確認出来ない中、基礎学力の視点をどこに持てば良いのか解りかねるが、指導要領に伴う内容としては、学校の自己評価が適切なのではないかと考える。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝霞市教育委員会研究開発学校指定を受け、一人一人の教員の授業改善に取り組んだ結果、「生徒に学びを委ねる」授業形態を取り入れることができた。 ・定期テストの採点にデジタル採点システムを活用し、生徒一人一人の実態を分析したり、クラスの状況を分析したりすることで、全体指導における工夫改善に生かしている。 ・個別の活用しているAI学習ドリルの結果から、個に応じた学習指導に繋がられるように努めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善のためのさまざまな施策に、継続的に取り組んでいる。 ・AI等の新しいデバイスを活用するにあたり、単に授業改善のためだけでなく、教師の働き方改革にも結びつけながら活かしている点を評価した。教師に余裕ができると、授業や指導の改善に向けて一層の工夫ができるからである。 ・AIとどのように共生するかを見据えるなど中長期的な視点に立った内容を取り入れる姿勢を引き続きお願いしたい。

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明（ここにコメントを入力してください）
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年生徒指導の先生を中心に生徒指導が円滑に行われていた。 個別事案に対して複数教員での生徒指導が徹底できた。 教員による丁寧な保護者連絡を行うことができた。 行事前などの確認が直前になってしまったため、周知が徹底しきれなかったことがあった。 服装指導が生徒に伝えきれいいなかったため、徹底できない場面があった。 ネクタイ忘れや名札の忘れが目立ったため、忘れた時などに、貸し出しができるような体制（貸し出し備品、貸し出し簿、貸し出し対応教員）を作り、異装のまま過ごすことのないように対応した。 「規律ある態度」に関する生徒用学校評価アンケートNo.7、No.9「あなたは守っていますか」では肯定的意見が92.5%、96.8%に対してNo.8、No.10「学年は守っていますか」では66.3%、76.4%と下がっている。集団としての規範意識を高める必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校内よりも、学校外での態度・行動をどう判断していくのか、また学校外のことをどこまで学校が干渉するのが悩ましい課題だと思われる。その管理所在が保護者なのか学校なのか、明確にしにくい課題だが、その方向性を検証・検討・対策を講じるのは教育委員会の役目ではないだろうか。学校現場は努力していると感じている。 生徒数の多い学校であるため、生徒指導について多少の困難さを伴うことがうかがえる。 中学生の発達段階においては、自立心を集団の中で磨き育てることが求められると説く識者もいる。学級集団はもちろん、学年という集団も自立心を育てる土壌となるよう期待したい。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝のあいさつ運動、黙読清掃、授業評価、行事前の〇日間チャレンジ、完全下校時刻を守る取組、各種委員会のキャンペーン等、生徒が主体となる取組を積極的に推進することにより、学校生活に変化を作り、達成感や成就感を高める実践を行った。 生徒用学校評価アンケートNo.2「先生は努力している」は肯定的意見が93.7%となっており生徒は肯定的に受け止められている。 学校評価保護者評価のNo.6「学校は取組をしているか」では、肯定的評価が86.0%だが、No.5「規律ある態度が身につけているか」では、81.9%と下がっている。比較的高い評価を頂いているが、取組ほど身についてはいないと評価されている。今後の一層の改善が必要であると捉えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教職員の活動、そして生徒用学校評価アンケートの結果から、生徒たちが教職員に信頼を寄せている様子がうかがえる。教職員への信頼は、特に規律に関する指導に必須である。 保護者からの評価に若干の驕りがあることについて、検討を要する。ただし、昨今の保護者は学校に我が子の「しつけ」を求める場合が少なくない。本来なら家庭教育の範疇にある「しつけ」を、学校教育に求めるのは過度な要求ともいえ、これによって学校の評価を下げるのであれば学校にとって酷であろう。 生徒本人とその周囲の環境の実態把握、生徒への影響力が大きいステークホルダーを巻き込んだ指導を実施して欲しい。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 体育委員会の取組として昼休みに校庭と体育館を開放している。 各学年に用意しているクラスボールを用いて、昼休みに外でサッカーやバレーボールなど、複数で運動を楽しんでいる様子が見られる。クラスによっては担任等、教職員も一緒に活動する様子が見られる。 運動系部活動は、多くの生徒が意欲を保ち熱心に活動に取り組み、様々な大会等で結果を残す生徒がいることが、他の生徒の目標となり、更なる意欲向上に結びついている。 生徒アンケートでは「部活動は楽しくやりがいがある」の肯定的意見が88.2%、学校評価保護者評価「体育の授業や運動部活動等の運動に意欲的に取り組んでいる」92.7%の肯定的回答が得られている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者へのアンケート結果から、生徒が部活動等によく取り組んでいるさまがうかがえる。 今後は体育の推進を特徴づけるような、具体的な施策の展開に期待したい。 運動及び部活動の活躍は、継続してよい評判となっています。 部活動参加生徒の減少は否めないと思うが、参加している生徒においては意識をもって活動しているように感じる。 中長期目線での運動の効用と運動することの楽しさを上手に伝えてくれる民間団体の活用が必要である。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テスト種目別記録の掲示や体力課題を意識した体育授業の改善など、生徒の意欲を喚起し体力向上に取り組むことができた。 地域人材活用支援員として、部活動や水泳指導を依頼し、指導の充実を図った。 保健委員会の活動として、熱中症や感染防止対策の注意喚起、救急救命講習をおこなった。 学校歯科医、衛生士と連携した歯科保健指導、助産師の方からの性に関する指導などを行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 夏場の体力向上は困難を伴う所だが、一年を通し相対的に努められているのであれば、特に申し上げることは無い。 子どもの体力向上に関し、直接的・間接的に複数の面からアプローチを試みている。 体力向上に向けた「意図的な向上策」の充実を期待したい。 中長期目線での運動の効用と運動することの楽しさを上手に伝えてくれる民間団体の活用が必要である。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 近隣大学の学生ボランティアを保健室やさわやか相談室で活用したり、部活動や授業の外部指導者等、多岐にわたり地域の人材を教育活動に導入することができた。 1学年社会体験事業では、生徒数の増加に伴い、体験できる事業を増やすための呼びかけをおこなったところ、昨年度以上の数の事業所が協力して頂けた。 二中鳴子「双葉」の取組では、保護者の協力のもと地域の団体が演舞の指導をおこなった。当日の協力も含めて素晴らしい成果があった。 学校評価保護者評価No.9「保護者や地域と連携して教育活動を行っている」は肯定的評価が84.4%となっており、肯定的意見が8割を超えている。今後も連携による学力や体力向上の取組を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 現在、学校と地域が話し合い、連携の場をつくり始めています。今後、更に良い方向に向かってくれることを期待します。 「社会に開かれた教育課程」の実現に資するような地域連携が積極的に進められている。これからも継続的な取組に期待したい。 文部科学省の施策では、各学校に「地域学校協働本部」を設置し、「地域学校協働活動」を推進することが求められている。これへ向けた発展も視野に入れる必要がある。 保護者・地域が参画しやすい仕組みづくりが必要である。
	10	学校は保護者や地域と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と教師の会主催で実施している放課後下校指導では、1学期、2学期に1回ずつ、保護者が20名程度と教員10名程度が協力して、4コースに別れて地域の見回りをおこなった。 保護者と教師の会の役員を中心に、昼休み、授業中の校内見守り活動を実施した。生徒の日常を見ていただくとともに安全指導・健全育成の充実を図った。 生徒会が中心となって実施した黒目川清掃の取組に、生徒が大勢参加するようになった。地域の清掃活動に協力することができた。 学校評価保護者評価No.10「保護者や地域と協力し合って安全指導や健全育成に取り組んでいる」では肯定的意見が84.5%となっており、8割を超えている。今後も連携による教育力向上の取組を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の問題行動等を早期に発見したり未然に防ぐための連携が、学校と保護者との間で明確に取れているさまが見える。 今後は保護者だけでなく、警察、消防、医療機関等の関係機関とも連携を深めてもらいたい。 昨今の共働き世帯増加に伴い、PTA関係者のかかわり方が変化してきているように感じる。本来のPTAの趣旨である自発的ボランティアによる「機会の創出」を目指すか課題である。 保護者・地域が参画しやすい仕組みづくりが必要である。

注：「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満